



# 麻生多摩美の森だより

64

麻生区市民健康の森 一麻生鳥のさえざり公園一  
麻生多摩美の森の会広報紙第 64 号 2022 年 3 月 31 日発行  
発行人：会長 田中 肇 編集者：伊勢谷 能宣

麻生多摩美の森の会

検索



## プレーパーク



みなさんはプレーパークという活動をご存じでしょうか？プレーパークとは、既成の遊具が並べられた公園でお仕着せの的に子どもたちに遊ばせるのではなく、“子どもたちが自分の責任で自由に遊ぶ”ための場を提供する活動であり、デンマークで 1940 年頃に「がらくた遊び場」として始まったものが由来とされています。日本では世田谷区の羽根木プレーパークのオープンをきっかけに認知度が広がってきました。麻生区では「麻生プレーパークを創る会（通称：あさふれ）」が 12 年に渡って活動を続けており、多摩美の森では焚火をしたり、樹々にロープの橋を渡したり、ターザンやハンモックを吊るしたり、森ならではのワイルドな遊びが毎回行われています。今回は 2 月 19 日(土)に開催されたプレーパークにお邪魔し、プレーリーダーとして各所の運営に携わる垣内雄太さん、あさふれの代表を務める飯野優子さんにお話を伺いました。

プレーリーダーとはなんだろう？まずはそんな素朴な疑問に垣内さんが答えてくれました。「大人だけで遊び場をやると、大人な意見しか出てこない。当事者である子どもの意見を表面だけ受け取って、大人の考え方をした遊び場になっていきがち。だから僕のようなプレーリーダーが子供の目線に立つ事を強烈に意識して、子どものやりたい事を大人に伝えていくのが主な仕事なんです。」確かに子どもたちからも気さくにカッキー！と呼ばれ、友人の一人として接しているのが印象的。垣内さんご自身、羽根木プレーパークで少年時代を過ごし、学童保育や子ども夢パークなどでも働いてきた“遊び場づくりのプロ”、居るだけで安心感があります。



はじめてのターザンに勇気が出ず…。しばらくして意を決してジャンプ！このあと拍手喝采が…！

一般的な公園と違い、プレーパークではできる限り禁止事項を解除しようという理念を持っています。木に登るな、穴を掘るな、制約だらけの公園に子どもたちは魅力を感じなくなってしまう。だからこそ自由に遊びを創造できるプレーパークにはニーズがあり、ノコギリ等の工具が並び、焚火も自由(※)、高枝から吊るされたロープでターザン遊びもできる、時に危険な事にも

チャレンジしながら、子どもたちは“遊び”を通じて“学び”を得ています。

飯野さんが代表を務めるあさぷれは現在5名のお母さん方によって支えられており、万福寺さとやま公園と多摩美の森にて定期的に活動を行っています。設立当初は助成も受けて常設化を検討していたようですが、現在はあくまで自主事業的に、垣内さんの協力を仰ぐ形で運営を行っています。子どもたちのために今後も長く続けて頂くには、地域の理解と協力が必要不可欠です。感染症対策下というもどかしさはありつつ、多くの大人・子どもに足を運んで頂き、活動を見守って頂きたいです。



2018年撮影。篠ダケにパン生地を巻き付け、焚火で焼いています。コロナ禍の現在は飲食物の提供はしていませんが、再開する日が訪れますよう…！

<2022年度活動予定@多摩美の森>

6/18(土)、10/15(土)、12/17(土)、2/18(土)※予定

詳細は公式 Twitter< @asapure1 >にて。

※焚火使用の際は必ず事前に森の会への申請と、消防への届け出を行っています。

文・伊勢谷能宣



## シイタケづくり



2019年撮影。大量のシイタケに興奮する子ども。森のシイタケは肉厚でみんな大好きです。

多摩美の森の会では、今までは道路公園センターよりシイタケのホダ木を預かり栽培してきましたが、今年度からは自分たちの手でホダ木作りからチャレンジする事となりました。



ナラ枯れした木を切り倒し、メンバー総出でホダ木を作っていきます。



菌糸がよく育つよう、1か月ほど乾燥させて余分な水分を抜いていきます。



乾燥が終わったホダ木にドリルで穴を開け…。



その穴にトンカチを使って種ゴマを打ち込みます。通りすがりの父子も飛び入り参加です。

今回打ち込んだのはシイタケだけではなく、クリタケとナメコにも挑戦しました。



今回植菌したキノコは二夏過ぎた2023年の秋に発生する予定です。どの程度の収穫が臨めるか…、多摩美の森の会の新たな試みにご期待ください！



## 多摩美の森のバイオトイレ

勝田 佳代子

多摩美の森にはバイオトイレと呼ばれる個室お手洗いが設置されています。普段は施錠しているためご利用頂けませんが、森の会等の各種団体が活動する日は開放し、特にイベント開催時は多くの方にご利用頂いています。

バイオトイレとは処理槽（便槽）の中にオガクズを入れ、排せつ物とともにスクリーで攪拌し、微生物の力で分解・処理するというものです。下水設備を使わないため環境への負荷も少なく、悪臭が発生しにくいというメリットもあります。汲み取り式ではありませんので管理の手間もさほどありません。多摩美の森では行っておりませんが、堆肥を生成する事もできます。

このバイオトイレは多摩美の森が“麻生区市民健康の森”として開設されるにあたり、ダメもとで川崎市に提案して受け入れられた経緯があります。川崎市にとっても初めて設置する施設であり、市側も悩みながら決断に至ったようです。

しかしながら敷設より 15 年を経て、最近では故障や些細な問題が起こるようになってきました。本来はインフラが通りにくい山小屋や自然公園などに設置されるトイレですから、対応できる業者も近くにはおりません。問題解決には時間がかかってしまうのが悩みどころですが、愛着のある、緑の中に佇む木造のバイオトイレを今後も衛生的に管理していきたいと思えます。



### 【今後の活動予定】

- 4/2(土) 草刈、樹木の手入れ、清掃
- 4/10(日) 会計監査（予定）
- 4/17(日) 里芋の植付け、草刈、樹木の手入れ、清掃
- 5/7(土) 草刈、樹木の手入れ、清掃
- 5/8(日) 7区交流会への参加
- 5/15(日) 草刈、樹木の手入れ、清掃
- 6/4(土) 草刈、樹木の手入れ、清掃
- 6/18(土) プレーパークの開催
- 6/19(日) 草刈、樹木の手入れ、清掃
- 7/2(土) 草刈、樹木の手入れ、清掃
- 7/3(日) 7区交流会への参加
- 7/17(日) 草刈、樹木の手入れ、清掃

毎月<第一土曜>と<第三日曜>10～12時、多摩美の森で活動を行っています。  
(6月～9月は9時～11時)  
見学、飛び入り参加大歓迎！  
里山の楽しさを親子で味わってください！

お問い合わせ：田中 肇  
tamaminomori@gmail.com

麻生多摩美の森の会

検索 



会員募集中（年会費 1,000 円）